

中国国家図書館サービスの現状と計画

中国国家図書館副館長
陳 力

電子出版物やデジタル化された情報資源が増加し続けるのに伴い、自動化やネットワーク化などの先進技術を幅広く活用しながら、ここ数年、中国国家図書館は多方面にわたり、多様な利用者サービスを提供し、一応の特色を形成してきた。

当館は 2,311 万件の文献を所蔵しており、その古書籍や貴重書により世に名を知られ、世界で中国語図書をもっと豊富に所蔵している図書館である。115 種類の言語の外国語資料が蔵書の 45%を占めており、中国で最大の外国語資料の所蔵機関となっている。当館は、国全体の書庫、全国書誌センター、図書館情報ネットワークセンター、図書館の発展研究センターとして、中国の経済的、社会的発展に重要な役割を果たしている。

一、 当館のサービス概要

当館の提供する利用者サービスには四種類ある。一つ目は、中央政府の関係機関への立法・政策支援サービス、二つ目は、全国の重点教育機構、科学研究機構、企業への新規事業支援サービス、三つ目は、国民の生涯学習支援サービス、四つ目は、全国の図書館への協力サービスである。

(一) 中央政府機関に対する立法・政策支援サービス

中央政府の関係機関からの調査依頼件数は年々増加しており、2001 年は 1,691 件に上り、前年度より 76.15%増えた。

1. 中央政府や国の指導者に対し、直接サービスを提供する。党や国の指導者が、特定の問題に関する研究資料を必要としたり、或いは何らかの表現や語句の出典などを確かめようとする時は、その事務局から電話で直接当館に依頼する。当館はその内容を『中央政府機関調査業務票』に記録して、レファレンス部門の職員に依頼を回付する。簡単な調査はその日のうちに回答し、比較的複雑なものでも最短の時間で調査を完了し、さらに迅速に情報をフィードバックするように要求している。中国共産党中央事務局や国務院事務局などの上級機関からも、よく特定事項の調査や、必要な資料の調達依頼がある。当館

では国の指導者に対するサービスを非常に重要視しており、依頼調査を受ける以外に、国の指導者の外国訪問や、国家に関わる重大事件の処理に際して役立つ、特定問題に関する資料集を主体的に提供している。

2. 全国人民代表大会、全国政治協議大会の代表者に対し、国政審議支援のためサービスを提供する。当館は全国人民代表大会情報センターや全国政治協議大会事務局と密接な連絡をとっている。1998年以降、毎年、両会議会期中、当館レファレンス部門の職員が24時間、ホットラインを通じて、両会議のための文献情報の調査サービスから利用者カード発行等のサービスまで全方面にわたってサービスを提供し、全国人民代表大会の代表者や全国政治協議大会の委員の立法・政策、国政審議に役立つ文献を確実に提供する。その具体的な方法は、会議が始まる前や会期中に、全国人民代表大会情報センターと全国政治協議大会事務局を通じて参加者に宣伝チラシを配り、当館の蔵書と調査能力を紹介する。会場や代表者たちが泊まっているホテルに当館の司書を派遣して、調査依頼をその場で受けたり、利用者カードを発行したりする。また、代表者側が電話・FAX・電子メールなどによって、当館で24時間待機している職員と連絡し、調査依頼をすることもできる。各調査結果はすべて最短の時間内に、当館の派遣司書によって代表者たちの手元に直接届けられ、代表者達が議案や提案を完成させるよう、文献情報を提供する。1999年から2002年までの両会議会期中、当館は249件の各種調査を完遂し、十分に当館の立法・政策支援サービスの機能を発揮することができた。

3. 中央政府機関の各部・委員会に対して文献提供やレファレンスサービスを行う。近年の中国国家図書館と国立国会図書館との業務交流を通じて、国立国会図書館は各府省庁に支部図書館を設置して、文献を統一的に収集して資源を共有し、サービスを保証しているということを知った。当館でも国の立法・政策策定機関に対するサービス提供を強化するため、貴館のやり方を学んで、1999年から中央政府の各部門・委員会に国家図書館分館を設置し始めた。現在では、人事部、国家発展計画委員会マクロ経済研究院、労働・社会保障部など三つの部・委員会に分館が設置されている。分館の運営や機構は次のとおりである。分館の組織機構・人員配置・財務と業務は各部・委員会が管理し、当館では業務の運営を指導し、文献や情報提供の支援をする。各部・委員会の指導者がマクロ経済の調査研究や科学的な論証の過程で各種情報が必要な場合、それぞれの分館からすぐに当館に伝えられる。当館は豊富な文献資源と経験に富むレファレンス担当職員、そして各種の先進的な手段によって、適切に国の各部・委員会の分館に情報資源を提供し、立法・政策策定に有効なサービスを提供する。

(二) 重点科学技術研究機構、教育機構および企業に対するサービス

中国国家図書館は、国の重要な文化施設また教育および科学技術研究の重要な組織なの

で、中国国家図書館が重点科学技術研究機構、教育機構、企業に対して情報提供し、その技術刷新や、人材育成、製品開発のためサービスを提供することは、当館の重要な責務である。

1．国内の有名大学と研究機構とに文献提供サービスを行う。1998 年以来、国内の有名大学かつ一流の科学技術研究機関である北京大学、清華大学、中国科学院、中国社会科学院と協力合意を結んでいる。それは大学や研究機構に人材を育成してもらうかわりに、当館は文献を確実に提供するというものである。当館が最新の文献資料を大学と研究所に週一回送り届ける方式で、大学教育の発展と技術革新を支援し、現在のところ、大学教員や研究者から幅広く好評を得ている。

2．地方の科学技術研究者の情報ニーズに応える。全国の図書館間貸出センターとして、当館は国内の 526 機関、63 の国・地域の約 500 機関と図書館間貸出しの業務を行っている。毎年、科学技術研究者からの申込みは、国際貸出しでおよそ 2,000 件、国内貸出しで 20,000 件に上る。この一年で、文献提供のあり方は、従来からの資料原本、あるいは複写物の提供から、電子出版物やデータベースの提供に発展し、依頼の受理や文献の伝達方法も FAX、電子メールや ARIEL ネットワークによるソフトウェア転送などの先進技術を利用するようになり、文献提供サービスのスピードや効率が大幅に向上した。

3．積極的・主体的な企業へのサービスを提供する。当館のクリッピング・センターは主に企業ユーザーを対象にサービスしている。センターは積極的に企業と連携し、利用者の範囲を拡大しようとしている。企業の経営管理上の需要に応じて紙媒体と電子媒体とでクリッピングを作成しているが、その内容は国家の政策法規、市場動向、製品リサーチ、価格比較など、特定テーマや総合的なクリッピングまで幅広くわたっている。コンピューター・ネットワーク技術によって、電子クリッピングは迅速に提供できるようになった。このような個々の企業に的を絞った個性的なサービスは、企業ユーザーから大変好評を得ている。

4．デザイン関係企業に便宜を図る。当館では、芸術デザイン専門資料室を設け、広告、撮影、観光、ファッション、建築、自動車、各種製品などの 430 種の外国定期刊行物を集中的に配置し、美術、デザイン関係の利用者のためサービスを提供している。

(三) 一般利用者へのサービス提供

中国では公共図書館が大変に少なく、一般利用者の文献ニーズに応えられないため、中国国家図書館は最大限の努力をして一般利用者へのサービスを提供し、全国民の資質の向上や、生涯教育の領域で積極的に貢献している。

1. 開館時間とサービス範囲。当館は年中無休である(停電時は例外)。一日の来館者数は延べ平均 1.2 万人、資料の出納量は延べ 8.1 万冊に達している。本館では利用資格年齢を 18 歳以上、分館では 16 歳以上としており、分館には 6-15 歳の子どもが利用できる児童閲覧室を設けている。

2. 閲覧と貸出し。利用者の多様な需要に対応するため、当館には特色のある閲覧室を 48 設けていて、3,357 の閲覧席がある。その中で開架閲覧室が 25 室あり、開架率は 60%を越えている。約 190 万冊の資料を開架しており、利用者は自由に閲覧できる。貸出室が 6 つあり、244 万冊の中国語および外国語資料の一部の貸出しサービスを行っている。2001 年末までで、貸出登録利用者数は 14 万人、年平均貸出量は 80 万冊に達し、また 24 時間、資料返却を受け付けている。

3. 図書館の社会教育と文化伝達の機能を十分に果たす。当館は一年中、専門の研究者を招聘して各種の学術・一般・芸術関連の講座を開催している。2001 年には、このような講座が全館で 150 回も開催され、受講者は延べ 5,000 人に達した。現在、本館の『中国文化と古典籍講座』、『敦煌とシルクロード文化講座』と分館の『文津講壇』は北京で非常に有名になり、利用者の積極的な参加を得ている。特に『中国文化と古典籍』については、一団の熱心な受講者がおり、雨でも風でも、冬でも夏でも欠かさず講座に参加される利用者もあり、感動させられる。

(四)全国の図書館と情報関係機関へのサービス提供

図書館学の発展や、文献メディアの多様化および図書館業務におけるネットワーク技術の応用などに対応して、当館は図書館業務の標準化を進め、業務研修を実施して、全国の図書館や情報機関、特に公共図書館に対して業務指導や、業務研修を行っている。

1. 図書館業務の標準化と業務規則の制定。過去数十年来、当館は業務標準と業務規則の制定に一貫して取り組み続け、全国の図書館に対し業務指導を実施して努力してきた。その成果として、『中国図書館分類法』、『中国語件名表』、『China-MARC フォーマット標準研究』、『中国古典籍修復技術標準』、『図書用品汎用技術基準』、『公共図書館防災規則』、『図書館業務バーコード標準研究』などの国家標準と業務標準を完成して、全国で図書館業務の標準化を推進した。今、当館では『China-MARC フォーマット』など 7 つの国家標準の研究を実施している。

2. 先進的図書館業務研修。近年、中国図書館学会事務局と当館の研修センターは、先進的な図書館の専門職に対する新たな要求に基づき、図書館と情報機関の職員を対象として

様々な研修を実施してきた。1999 年以後、『China-MARC フォーマット』、『コンピューターによる逐次刊行物の目録作成と管理』、『中国図書館分類法（第 4 版）』、『ネットワーク環境下のレファレンスサービス』、『電子図書館の建設検討班』等、91 回の研修を実施し、参加者は 6,455 人に達した。全国の図書館や情報機関に従事する職員の資質向上と、先進技術の習得に積極的な役割を果たしている。

(五) 電子情報の提供サービス

電子情報資源はこの十年来新しく出現した文献メディアで、当館はその構築とサービス提供を非常に重要視している。まず、電子文献の購入経費は増え続けていて、初期の十数万元から、現在は 500 万元に増加している。当館では社会科学、自然科学に関する中国語、英語の大型データベースを 70 余り、全文電子ジャーナルを 1 万種余り、マルチメディア CD-ROM を 6,886 種、9,951 枚を収集、保存しており、その情報量は 1TB に達している。現在では中国で最大規模の電子情報源の一つである。

また、よりよい電子情報サービスを提供するため、当館は電子閲覧室、マルチメディア閲覧室を設け、120 席を利用者に開放している。利用者は電子閲覧室の設備を利用して、インターネット情報や、データベースの情報リソースを速く検索し、必要な部分や全文データを直接入手するほか、ビデオオンデマンドを利用して優れた音楽・芸術・映画などの作品を鑑賞することもできる。電子情報資源の収集と利用によって、利用者の利便性は大いに向上し、文献調査の効率も高まった。

現在、当館は館内のギガビット・イーサネットを基礎として、中国の主要情報ネットワークと相互に連携しており、年中無休、1 日 24 時間稼働するインターネット情報提供システムを構築して、利用者に書誌検索、オンライン読書やナビゲーションなど内容豊富な電子情報サービスを提供し、日に 55 万回以上もアクセスがある。

二、 今後の計画と課題

この十年来、情報革命の進展に伴い、図書館の基本業務である利用者サービスや館内の管理体制にも巨大な変化が起きている。当館は国家図書館として、この巨大な変革の中で模範を示し、リーダーの働きをしなければならない。中国国家図書館は他の種類の図書館と共通点もあるが、相違点もあり、その相違点こそ当館の最も基本的な特徴である。中国国家図書館のサービスは、国家図書館としての特質とサービス範囲に基づいて具体的な目標を決めるべきである。

中国国家図書館の基本的な特質や機能は次のとおりである。中国国家図書館は国の総書庫であり、全国書誌データセンターであり、図書館発展研究センターおよび図書館情報ネットワークセンターである。当館は国の重点科学技術研究機構、教育機構、企業にサービ

スを提供すべきである。「一庫三センター」の基本的機能と、重点科学技術研究機構、教育機構、企業へのサービスこそ、これまでも、またこれから、サービス業務の重点を決定する最も基本的な指針となっており、我々はまた、社会の発展や利用者の需要に応じて絶えずサービスを改善していくのである。

1. 利用者サービス

他の図書館と同じように、当館は直接来館利用者一人一人に対し、文献情報サービスを提供し、また同時に、国の総書庫として、人類の文明、特に民族的文化財を保存する責務を遂行し、所蔵文献を全国ないし全世界の利用者に提供しなければならない。よって、今後当館の利用者サービスは文献提供サービスに重点を置くべきである。

長い間、当館は文献情報の共有・共同構築・共同利用に取り組んできたが、この十年来、文献メディアの多様化・利用者の需要モデルの変化・情報処理技術の目覚ましい発展があり、特に知的所有権保護に関する国民意識、要求も向上している。このような状況を受けて、文献情報も従来の共有方式を変えることを迫られている。私は、文献提供が文献情報共有を実現するには最も適当なルートだと私は考えている。全世界で最大の中国語文献提供センター、中国で最大の外国語文献提供センターとして、今後当館は所蔵文献の全文展示や、文献提供手段の改革、文献提供サービスの管理方式など、文献提供に関するサービスを大々的に推進していきたい。

来館利用者サービスをいかに改善するかということは、いま当館が抱えている課題である。現在、当館ではコンピューター管理システムの切換えが進んでいるが、新しい管理システムの導入によって、優れたサービスとサービス管理理念、管理モデルを導入しようとしている。新システムは従来分散していた10数箇所のローカルエリアネットワークを統合して、インフォメーションフロー、データフローと物流構造をより合理的に組み、全館で文献の収集、目録作成、閲覧、保存に関する情報の集中管理システムを構築して、利用者に対する文献提供サービス水準を全面的に向上させたい。

国家図書館として、国の立法・政策支援サービスは一貫して重要なサービスであるが、今後も変わらず、当館は各種の新しいサービスモデルを模索し、新しいサービス方法をもって政府関係機関へのサービス提供を行っていく。

2. 業界指導

当館は、一般利用者へのサービスの他、全国の図書館界に対する指導サービスも充実し、強化しなければならない。これも国家図書館として他の図書館に提供するサービスの一つである。

この十年来、情報ネットワーク技術の飛躍的に発展し、利用者が図書館に求める情報の範囲も急速に拡大し続け、図書館でも目覚ましい変化を遂げた。このような情勢に対応して、関係する業務の標準と規範を調整しなければならない。現在のところ、当館では以下のよ

うな仕事を進めている。

図書館関係の国家標準の策定と修正。(例えば、『中国分類法 MARC データフォーマット』、『中国古典籍修復技術規則と品質標準』、『RDF (Resource Description Framework) モデル及び記述規則』、『China-MARC フォーマット』、『文献用紙 - 耐久性に対する要件』、『文献情報 - 電子ファイルの準備作業とマークアップ』など。)

業務規範の策定と修正。(例えば『中国語文献目録規則』改訂版、『外国語文献目録規則』など。)

当館では、来年から『中国国家図書館業務規範』の策定を始める予定であるが、この仕事は、全国の図書館の業務管理に大きな影響を及ぼすであろう。

また同時に、職員研修も積極的に進めたい。国内の図書館と情報関係機関の需要に応じて、国内外の専門学者を招聘し、先進的図書館、電子図書館方面の新しい知識や、新しい技術を養成し、わが国の図書館職員が時代の発展に遅れないように育成し、わが国の図書館事業が世界でも先進的な水準を保つように努力する。

3 . 全国オンライン総合目録作成の推進

これは、全国目録データセンターとしての職責を果たし、国内の図書館に対してサービスするための重要な事業である。現在、一般中国語図書のオンライン総合目録を作成中である。また、既に着手、あるいは間もなく着手する事業としては、特殊資料(古典籍・貴重書、金石拓本、地図、手稿、写真などを含む) 総合目録の作成がある。

4 . 中国電子図書館の研究と建設の推進

電子図書館は図書館の将来の発展方向であり、時代の要求と利用者ニーズに合う発展方式を選択することが、いま当館が直面している最大の課題となっている。過去数年来、電子図書館をどのように発展させるか摸索し続けてきたが、今後は具体的なプロジェクトを通じて中国の国情に適った電子図書館の建設方法を探究していきたい。現在、『全国文化情報資源共有プロジェクト』、『デジタル地方志』などのプロジェクトを進めている。我々は、電子図書館の建設により、利用者に全く新しいサービスを提供し、現代的情報サービスと伝統的なサービスを有機的に結びつけ、中国国家図書館のサービスの新局面を常に切り開いていきたいと思う。